

ごぼうの黒あざ病（病原の追加）

平成4年8月に安平町（旧早来町）のごぼう栽培ほ場（品種：柳川理想）で葉柄基部の腐敗、根の黒変症状が発生した。病斑からは単一の糸状菌が分離され、分離菌の接種により原病徴が再現された。分離菌の主軸菌糸幅は6.4～11.2（平均8.8） μm 、菌糸の生育は10～35℃で認められ、適温は25～30℃、25℃における菌糸伸長速度は10.2mm/24時間であった。これらの特徴、菌糸融合反応、培養菌叢及び特異的PCR検定より分離菌を*Rhizoctonia solani* Kühn AG-2-2 IV、本病をごぼう黒あざ病と同定した。国内では昭和48年、道内では平成5年に本病の病原として*R. solani* AG-2-2 IIIBが報告されているが、AG-2-2 IVは未報告であるため、AG-2-2 IVを病原として追加することを提案した。

（農研本部原環セ・ホクサン（株））



ごぼうの黒あざ病

（元道立農試 田村 修氏 原図）